

老朽校舎もつぎつぎに改築（写真は熊本商業高校）

三十六年には、公共事業すなわち、道路、河川、林道等についての「地元負担を軽減」という趣旨で、国道改良事業と適用河川の改良事業については、地元負担を全廃、また、県道改良工事については、これを削減するという措置をとりました。

林道についても同じように、地元負担の軽減をはかつて、

付けを行なってきましたが、三十四年には三億円にすぎなかった貸付金を、今年度は七億円にまでふやしました。

そのほか「中小企業の設備近代化資金」……これは無利子ですが……三十四年にはわずかに五百八十一万円であつたものを、今年度は七千二百九十五万円と、大幅に増額しましたし、また、特に零細企業の育成措置として「信用組合の育成」に力を入れ、県から信用組合に対する貸出し金にして、三十四年は三億円にすぎなかったのが、今年度は二倍以上の六億五千万円にまでふやしています。

開発銀行からの「地方開発融資」も、三十四年に本県に流れてきた額は、わずかに二千万円にすぎなかったのが、昨年度は十二億円という融資額の受けいれに成功しています。

「流通対策」をみますと、その一環として、特に沖繩に対する貿易振興にも力を入れてきました。「沖繩に駐在員」を

事業の促進を考慮しました。そのほか、高校急増対策とは直接の関係なしに「老朽校舎の改築」も進めてきました。

三十四年度に済々豊高校の老朽校舎の改築を行なったのを手はじめに、菊池高校の火災復旧に基づく新校舎の建設、熊本商業高校の改築、今年度の八代高校の移転改築というように、計画的に進め、また、三十五年には、水産高校創設以来借りて使っていた実習船も、二隻建造しています。

さらに、建物の改築という面では、学校校舎だけでなく、警察署の改築も、三十四年から計画的に進めてきました。

高校施設も警察施設も、どんな都合かわからないが、これまで非常に老朽化したものが多かったのです。

これらを少しづつでも改築していくというわけで、矢部警察署をはじめとして、菊池、川尻、八代、熊本北署というように改築を進めています。

中小企業の育成対策

最後に、商工関係の施策も忘れてはならない、これには、大企業の問題と、中小企業の問題とがあります。特に中小企業の問題は非常に難かしいものがあります。

そこで県では「中小企業の組織化」に力を注いできました。具体的には「商工会」を県内各地に育成し、これに「経営改善普及員」という制度を設けて、その活動によって中小企業の健全な育成をはかつてきたわけです。

また「金融」も重要な問題であるので、県の歳計余裕金の貸

駐在させ、あるいは三角港に「植物検疫所」を誘致するなど、いろいろと努力を続けた結果、三十三年には二十九億円であつた貿易額が、昨年度は四十一億円にまで伸びてきました。

こうして、中小企業を対象とした対策のほかに、大企業を中心とした「工場新設」も、相当大きな実績を挙げてきました。三十四年以降の工場新設と拡張は、つぎのとおり非常に多数にのぼっています。

新設された工場

○新日本化学（水俣市）

マグネシヤ・クリンカー生産。近く拡張する計画。

○日室吉野プラスチック（水俣市）

石膏生産。

○興国セロハン（八代市）

セロハン生産。

○大永紙工（玉名市）

段ボール生産。用地買収済み。近く工場建設。

○日本デキストローズ（八代市）

結晶ブドウ糖生産。用地買収済み。

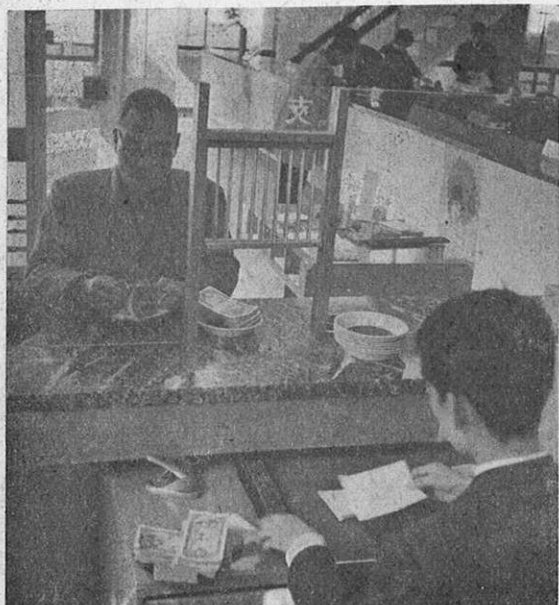
○阿蘇興産（菊陽村）コープ食品（熊本市）熊本冷蔵（熊本市）あけぼの産業（三角町）日興食品（松橋町）太平洋食品工業（本渡市）日豊食品（熊本市）阿蘇開発（阿蘇町、近く工場建設）

いずれも缶詰その他食品生産。

拡張された工場

○三楽オーシャンのグルタミン酸工場（八代市）

○新日室のオクタノール工場（水俣市）



中小企業への融資も大幅に増額